

仁組獅子舞

栢田を歩く

新年を迎え、市内には古くからの伝統行事が行われる集落があります。栢田区(栄地区)で、1月8日の初茶飯の際に行われる「仁組獅子舞」は、昭和59年2月に千葉県無形民俗文化財に指定されました。

筆者はまだこの行事を見ていませんが、『広報そうさ』(平成27年2月号)では、「獅子が集落内の各戸を回って疫病や災いを噛み砕き、五穀豊穰・無病息災を祈る行事で、

家に獅子が上がれば伴奏の囃子に合わせ華麗な舞を披露。訪問を受けた家庭の人たちは獅子に体を噛んでもらい、今年1年の健康を願いました」と紹介されています。

行事の由来について『野栄町史』などには、次のように紹介されています。

「江戸時代の天明年間(18世紀後半)頃、全国的な大飢饉にみまわれた際に、上総国作田村(現在の九十九里町)

の住人が五穀豊穣と疫病退散を祈願して獅子舞を奉納し、これが後に木戸村(現在の横芝光町)に伝わり、さらに栢田村にも伝わった」とされます。

戦前は、1月28日の「石尊講」に行われていたそうです。石尊講とは、神奈川県伊勢原市大山にある「大山

千葉県指定無形民俗文化財の「仁組獅子舞」



阿夫利神社」を信仰する集団

のことで、旧八日市場市域では江戸時代後期の石宮4基が見つかり講中の存在が知られ、明治初年には匠瑳郡内で約80パーセントの村に大山講(石尊講)があったとの報告があります。栢田区での石尊宮の調査はまだですが、「作田地区では大山講が盛んであった」(『九十九里町誌』)とされ、大山講が獅子舞の伝来とつながったのかもしれない。

江戸時代後期、1845年ごろの栢田村の家数は、「東栢田村120軒」「西栢田村68軒」の合わせて188軒との記録があります。このうち、なぜ仁組だけに獅子舞が伝わったのか、疑問も残ります。「ふさの国の文化財総覧」では、「曲芸や演劇が融合した大神楽」として、獅子舞の演目や道中囃子が紹介され、「独特の郷土色豊かな楽曲」と評されています。

仁組獅子舞保存会(伊藤明会長。会員30余人)により、今年の所願成就が祈願されます。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080